

耕畜連携推進事業費

予算要求額 2, 000千円

(財源：全額重点交付金)

1 現状と課題

- 耕種農家・畜産農家ともに肥料価格・飼料価格の高止まりによる経営収支の悪化が続いている。
- 双方の問題解決のためには、耕種農家による畜産堆肥の利用や畜産農家による飼料作物の利用など耕畜連携の取組が不可欠。

<これまでの取組>

- 畜産農家に対して、飼料保管 TENT や堆肥乾燥用ハウス等の設備の導入経費を支援。(R5. 2)
- 耕種農家に対して、堆肥散布機器やすき込み用機器等の設備の導入経費を支援。(R6. 9)
- 畜産農家設備導入実績(124 件・39, 077 千円)、耕種農家設備導入実績(133 件・39, 002 千円)

<残された課題>

- 事業効果の更なる拡大や堆肥・飼料作物の広域的な流通の恒常化を図るため、耕畜連携に新たに取り組む事業者も含め、引き続き輸送費に対する支援が必要。



府内産肥料・飼料の広域流通体制を更に強化し、「耕畜連携」を恒常化することで、耕種農家・畜産農家双方の所得向上、経営の安定を図る。

2 事業概要

- 飼料作物及び堆肥の輸送経費への支援 2, 000 千円

飼料作物及び堆肥の広域流通を推進するため、輸送経費の 1 / 3 を支援

対 象：京都府内の農業者または農業者等が組織する団体

補助率：1 / 3 【想定件数：約 160 件】

取組の自走のためにも段階的に補助率を下げて実施

【1 年目：2 / 3 → 2 年目：1 / 2 → 3 年目：1 / 3】

※南丹→丹後(堆肥輸送)、丹後→南丹(飼料作物輸送)等

3 見込まれる効果

- 3 年間の事業で構築・拡大された「耕畜連携」が恒常化することにより、新たな収益モデルが構築され、自立的な耕畜連携の取組の拡大が見込まれる。